



No.96 2010・7・15

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れきはく



禽譜図解 前田利民筆 黒部市美術館蔵

会 期

7月17日(土)~8月31日(火)

会期中無休

会 場 第1特別展示室・第4展示室

主 催 石川県立歴史博物館

特別協力 いしかわ動物園 石川県自然保護課

開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

入 館 料 一 般 550円(440円)

大学生 450円(360円)

高校生以下無料 65歳以上の方は440円

()内は20名以上の団体料金

夏季特別展

トキ舞う空へ 鳥と人の文化史

特別セミナー <聴講無料>

日 時 7月19日(月・祝) 午後1時30分~3時

会 場 学習ホール

講 師 いしかわ動物園主任 竹田伸一氏

演 題 「トキ野生復帰への道」

動物園が取り組んだ復活作戦」

展覧会観覧の場合は入館料が必要

村本義雄氏による展示ツアー

講 師 村本義雄氏(日本中国朱鷺保護協会名誉会長)

日 時 7月18日(日)・8月1日(日)

両日とも午後2時~3時

会 場 第1ステージ(第4展示室)「トキ、命の軌跡」

入館料が必要

れきはく学芸員による展示ツアー

日 時 7月25日(日)・8月8日(日)

両日とも午後2時~3時

会 場 第2ステージ(第1特別展示室)「鳥と人の500年」

入館料が必要

トキとヒト、鳥とヒトの未来をさぐる
夏季特別展

「トキ舞う空へ 鳥と人の
文化史」開催にむけて

1 なぜ、「れきはく」でトキ展？

平成二十二年一月八日に佐渡のトキ保護センターから四羽のトキが石川県へ移送されました。

石川県は、本州で最後のトキの生息地でした。命の軌跡を長く見守りつづけた県民にとって、トキの分散飼育には、はかりしれぬ思いがあります。戦後まもなく一人で行動をおこし、そして少しずつ賛同者の輪をひろげながら保護をすすめてきた村本義雄さんにとってはとりわけ感慨深いものがあるでしょう。

今回、ヒトの歴史を専門とする歴史博物館が、トキを展覧会のテーマに選んだのは、トキがふたたび石川の空を舞うためには、自然科学の枠組みでの努力のほかに、ヒトとの関係の再検証と未来設計が必



手取川上流を舞ったトキ
金沢市立小將町中学校蔵
国内にもわずかしかない明治時代のはく製。普段の公開は中学校の創立記念日1日だけ。

要だと考えるからです。

トキは、人里はなれた奥山やヒトを寄せ付けない断崖に生きた鳥ではありません。ヒトが管理する赤松の上に巣をつくり、ヒトが開いた水田や溜池を餌場とした鳥、つまり、ヒトの暮らしによって生きられた鳥でした。

一方において、トキが絶えたのは、長きにわたる狩猟や農薬散布、里山開発などヒトの暮らしの影響が蓄積した結果だと考えられています。トキの生存と死滅の双方にヒトはかかわってきたのです。

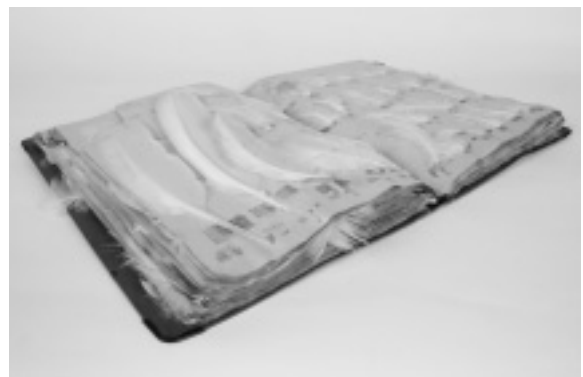
わたしたちは今後、トキとどうつきあうていくべきなのでしょう。今回の展覧会では、ヒトとトキ、さらにはヒトと鳥のつきあいの歴史を、北陸三県に残る歴史資料や、村本義雄さんから県へのご寄贈資料（歴史博物館・自然史資料館所蔵）をもとに紹介し、両者の共生の未来を考えます。

展示は、第一ステージ「トキ、命の軌跡」と第二ステージ「鳥と人の500年」の二つの会場からなりたっています。歴史系の博物館の特別展というと、ガラスケース越しに貴重な史料を眺めるのが普通ですが、今回は、体験型のコーナーを充実させ、また自然資料と史料のコラボレーションをはかるなど、多角的な展示を試みます。

2 トキになって里山を飛ばそう！

体感する第一ステージ

第一ステージでは、トキの保護に半生をささげてきた村本義雄さんの収集資料を通して、トキの生態のなぞをさぐるほか、現在の分散飼育にいたる長い



村本さんが眉丈山で集めたトキの羽根
羽根の収集地から生息範囲を証し、禁猟区拡大の根拠とした。村本さんの熱い思いが伝わる資料。

道のりを、古文書・絵画・はく製・写真・標本などのさまざまの未公開資料を交えてたどりませう。加賀藩が近江のトキを放鳥したこと、加賀藩の絵師が繁殖期のトキの絵を描いていたこと、江戸時代はトキの羽根を集めるのに必死だったこと、百年前まで手取川の上流をトキが舞っていたこと、昭和の初期も石川県民はトキに「喜一憂したこと、

などトキにまつわる秘話を紹介します。

資料の目玉は、本州最後のトキ・能里の声の録音テープ。本州産トキの生息数は、昭和三十九年に一羽と推定されました。昭和四十五年に佐渡へ移送されたわけですから、約六年間、能登半島にひとりぼっちで暮らしていたことになりました。能里は、どんな思いで鳴いていたのでしょうか。そして、マイクを向けた村本さんの心のうちは……。目を閉じ、耳をすましてみましょう。

また、いしかわ動物園へ移送されてから現在に至るトキの記録映像を八十五インチ大型ハイビジョン

で紹介しします。元気なトキの姿を細部まで楽しむことができます。

3 鳥とヒトのつきあいを徹底検証

知識を深める第二ステージ

第二ステージでは、ヒトと鳥がいかに多様かつ濃密なつきあいをしてきたか、十六世紀までさかのぼって検証します。展示では、史料に出てくる鳥たちの存在を実感してもらうために、はく製と史料を複合させた文理融合型の展示をおこないます。

ここでの目玉は、鳥の王たる鷹の屏風です。十六



鷹匠家に伝わる鷹の羽根図解 依田盛敬氏蔵
加賀藩鷹匠の知識量を実感できる一点。ほかに約80冊の鷹書を公開。
鷹匠は大変な勉強家であった。

世紀から十七世紀にかけて鷹の専門絵師としてひろく知られた橋本長兵衛が描く架鷹図(敦賀市立博物館所蔵・敦賀市指定文化財)、猿・兔をとらえる場面を奔放な筆致で描いた桃山時代の鷲鷹図(円立寺蔵・大野市指定文化財)など福井県内に残る名品を公開します。

また、富山県にちなむものとして、九代富山藩主前田利幹(一七七二-一八三六)の三男利民(一八〇六-一八七一)が描いた鳥

の絵巻を公開します。十代藩主・利保(一八〇〇-一八五九)は日本を代表した本草学者の一人でしたが、利民もその影響を受け、鳥類に強い関心をもちました。羽根の一枚一枚にまでこだわる観察力と筆力は圧巻。

さらに、江戸時代外国から金沢へはるばるやってきた珍鳥たちの写生図(石川県立工業高等学校蔵)も初めて公開します。描いたのは加賀藩の御用絵師・梅田家。金沢の寺社で見世物にされたときや御細工所に持ち込まれた際に写したもので



す。見世物文化史の一級資料として評価できるほか、細工所という場所の特質をさぐる上でも興味がかかります。

このほか、気多神社の鳥たちを注視した藩主たちの文書、加賀藩八家・横山家に伝来した小鳥飼育書、加賀藩に代々仕えた鷹匠家に伝わる鷹の書物、鷹の捕獲を務めとした能登の旧家の伝来品など、鳥文化の深みがわかる貴重な資料を一挙公開します。



体験メニューもたくさんあります!!

貸出中の館蔵品

他の施設でも見られる歴博の貴重資料

歴博の館蔵資料は総数約十六万点にも及びますが、その一部は、県内外を問わず、他館の展覧会に貸し出されることとが少なくありません。また放送局や出版社へのポジフィルムなどの貸し出しも、よく行われています。展覧会や催し物などに比べるとあまり知られていない業務ですが、これも博物館の重要な仕事のひとつなのです。

- ・「上杉謙信書状（遊佐登松丸宛）」
- ・「日の丸陣羽織（長尚連所用）」
- ・「銭九曜紋陣羽織（長尚連所用）」

計三点

開館10周年記念特別展「日本海の至宝」

七月二十四日（土）～九月五日（日）

会場：新潟県立歴史博物館

（新潟県長岡市・〇二五八 四七 六三三四）

- ・「珠洲大甕」
- ・「珠洲綾杉叩き壺」
- ・「珠洲秋草文壺」
- ・「珠洲双耳水注」

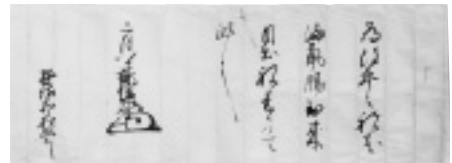
計四点

特別展「古陶の譜 中世のやきもの 六古窯とその周辺」(巡回展)

九月四日（土）～十一月十二日（日）

会場：MIHO MUSEUM

（滋賀県甲賀市・〇七四八 八二 三三四一）



上杉謙信書状



日の丸陣羽織



珠洲秋草文壺



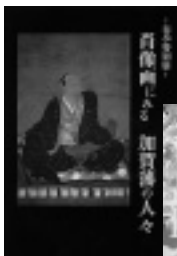
珠洲綾杉叩き壺

主な刊行物のご案内

石川県立歴史博物館展示案内

(税込定価)

| | | |
|------------------------------|---|------|
| 石川県立歴史博物館展示案内 | 一 | 〇〇〇円 |
| 冷泉家の歴史と文化 | 三 | 五〇〇円 |
| モダン調へ 蓄音機 | 一 | 〇〇〇円 |
| 太子信仰と北陸 聖徳太子へのあこがれ | 一 | 〇〇〇円 |
| 永光寺の名宝 | 一 | 二〇〇円 |
| 紀尾井町事件 武士の近代と地域社会 | 一 | 七〇〇円 |
| 祝い絵 ディスプレイの民俗誌 | 一 | 〇〇〇円 |
| 能楽 加賀宝生の世界 | 一 | 二〇〇円 |
| 利家とまつが生きた時代 戦い・くらし・女たち | 一 | 九〇〇円 |
| 景勝をめぐる いしかわの景観史 | 一 | 二〇〇円 |
| いしかわの歌仙絵馬 | 一 | 四〇〇円 |
| 風俗画伯 巖如春 都市の記憶を描く | 一 | 四〇〇円 |
| 源平合戦と北陸 義経伝説を育んだふるさと | 一 | 六〇〇円 |
| 加賀百万石への道 戦国から太平へ | 一 | 二〇〇円 |
| 昭和ワンダーランド モノでたどる戦後 | 一 | 〇〇〇円 |
| 石川のお宝史 名宝から文化財へ | 一 | 三〇〇円 |
| 弥生ムラの風景 越のクニ生み・境界・交流 | 一 | 二〇〇円 |
| 御用絵師梅田九栄と俳諧 | 一 | 三〇〇円 |
| 肖像画にみる加賀藩の人々 | 一 | 四〇〇円 |
| ASODE 百・華・綾・乱 丸紅所蔵衣裳名品展 | 一 | 五〇〇円 |
| 春日懐紙 | 一 | 五〇〇円 |
| 本願寺展 世界遺産の歴史と至宝 | 一 | 三〇〇円 |
| シャルジャ、砂漠と海の文明交流 アラビアの歴史遺産と文化 | 一 | 三〇〇円 |
| トキ舞つ空へ 鳥と人の文化史 最新刊 | 一 | 〇〇〇円 |



総合カウンターで販売中。定価はすべて税込。郵送料希望の方は、当館へ直接お問い合わせいただくか、当館ホームページ・刊行物案内（図録等）をご覧ください。（電話〇七六 二六二 三三三六）

春の歴史散歩「金沢駅周辺の史跡をめぐる」



五月十四日、二十二名の方が参加され、春の歴史散歩が行われました。五月にしては肌寒い一日でしたが、安江、堀川両町をめぐり、歩くうちに絶好の散歩日和となりました。大きな通りを少し入っただけで、昔ながらの家並みが残る風景に入り込みました。また、安江八幡宮と久昌寺では丁寧なご説明をいただきました。大変お世話になりました。普段から人通りの多い地域ですが、ゆっくり歩くことで新しい発見がありました。

「シャルジャ、砂漠と海の文明交流」展が終了

四月二十三日にシャルジャ首長をお迎えして盛大に開会した、「シャルジャ」展が終了しました。関連企画として、アラビックコーヒーの提供やシャルジャ音楽隊の公演などが行われ、期間中は「アラビアの民族衣装を着てみよう」のコーナーが人気でした。また記念講演会では、金沢大学教授の佐々木達夫氏が「アラビア半島を掘る」と題して講演されました。原油輸入に関して日本と深く結びついている、アラビア地域の歴史と文化に触れた四十四日間でした。



催事日録

六月二十五日、三十九名の参加を得て恒例のバスツアーを開催。タイトル通り、近いゆえにゆっくりしたことがあまりない高岡を再発見。午前、市内に残る伝統的な町並み散策で、土蔵造り家屋の山町筋と千本格子の町家の特徴の金屋町を歩きました。昼食後、午後はバスで伏木地区へ移動して、勝興寺と国泰寺を見学。丁寧なご説明をいただきました。特に大掛かりな修復工事が行われている勝興寺では、工事現場で直接お話をうかがうことができ、とても充実した一日となりました。



シャルジャ展開催初日、二日目の四月二十四日と二十五日、開催記念イベントのひとつとして、カリグラフィー(アラビア書道)のワークショップが開かれました。幾何学模様を記すカリグラフィーは、アラビアの最高芸術のひとつといわれます。イベントでは、ジャラフ先生と日本書道の宇多先生によるコラボレーションが行われ、大盛況となりました。また、期間中は「アラビア文字で名前を書こう」のコーナーが人気を集めました。



れきはくメイトバスツアー 高岡・再発見

ワークショップ「カリグラフィー講座」

人事異動(4月6日付)

転入
 総務課 主任企画管理専門員 森 孝弘 (金沢県税事務所より)
 学芸課 学芸主任 三浦俊明(白山ろく民俗資料館より)
 普及課 学芸専門員 小森康弘(野々市市明倫高等学校より)

転出
 総務課 主任企画管理専門員 桂 修(金沢港湾事務所へ)
 学芸課 学芸主任 小西洋子(白山ろく民俗資料館へ)
 普及課 学芸主査 永井 浩(金沢北陵高等学校へ)

昇任
 学芸専門員 大門 哲
 学芸主任 大井理恵

行事日程(8~9月)

| 月日 | 行事 | 内容 |
|---------|------------|----------------------------|
| 8/6(金) | 常設展示ポイント解説 | 戦時下のくらしと代用品 (学芸主任 大井理恵) |
| 8/21(土) | れきはくゼミナール | 鳥がさえずる日本史 (学芸専門員 大門 哲) |
| 9/10(金) | 常設展示ポイント解説 | 縄文時代の食生活 (学芸主任 三浦俊明) |
| 9/18(土) | れきはくゼミナール | 雨乞いの考古学 (学芸主幹 戸潤幹夫) |

開講時間：午後2時
 会場：常設展示ポイント解説：各関係展示室
 れきはくゼミナール：学習ホール
 受講料：常設展示ポイント解説：展示室内行事につき、入館料が必要
 れきはくゼミナール：無料
 申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。

れきはく
トリウイア

大砲の威力やいかに？

「わっ、これ本物!」
「これって、どうやって撃つん!?」
「本当に撃ったん!?」

こんな質問を次から次へと浴びせかけてくるのは、小学生の男児グループ。ここ第6展示室で大砲が展示されているコーナーは、向かい側のエレキテルと並んで、子供たちのちょっとした人気スポットになっています。



幕末の頃、海上上の必要から、幕府をはじめ各藩では競って大砲の鑄造を手がけました。加賀藩でも弘化年間（一八四四～四七）には、後に壮猶館（藩校）で活躍した斉藤三九郎や河野久太郎による試し撃ちの記録もあり、結構盛んに大砲が作られていたようです。展示されている大砲も、おそ

らくこつした中で生まれたものでしょう。

さてこの大砲ですが、実は高岡銅器の技術で製作された複製品。本物は仙台市の東北大学総合学術博物館にある青銅カノン砲です。砲身には「嘉永癸



「嘉永」の記年銘

丑復月吉」の記年銘があり、嘉永六（一八五三）年十一月、ペリー来航年（来航は六月）の製作であることが分かります。さらに「用明宿壮」「征夷府儒臣佐藤担銘」「加州藩土河三亥隷」という銘文もあります。「用明宿壮」は「備えあれば憂いなし」というような意味、「佐藤担」は幕府の陽明学者で昌平黌教授の佐藤一斎、「河三亥」は加賀藩の儒学者で、「幕末の三筆」と称された能書家でもある市川米庵のことです。いわばこの大砲は当代一の学者と書家による銘を持つ、大変貴重なものだったことがうかがえるのです。

そこで仙台にある実物の青銅大砲、これが実戦で使われたのかどうか興味のあるところですが、当時の鑄造技術では、発砲時の衝撃に耐えられるものは佐賀藩の反射炉での製造品などに限られていたといわれています。ということは、おそらく異国船の来航に際して台場などに威嚇用として据え付けられた、いわばダミー（偽装）砲といえるものだったのでしょうか。

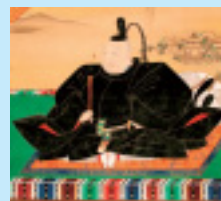
次回の展覧会

秋季特別展

徳川将軍家と加賀藩

9月23日（木・祝）～11月3日（水・祝）

徳川将軍家から加賀前田家に嫁がれた、珠姫・大姫・溶姫らの婚礼に係わる資料に、篤姫や和宮の婚礼調度品を加え、将軍家と加賀前田家との濃密な関係を探ります。



東照大権現像
尾崎神社蔵

展示替えによる休館日（7～9月）

| | |
|-----------------|-------|
| 7月15日（木）～16日（金） | 2日間 |
| 8月 | 休館日なし |
| 9月1日（水）～3日（金） | 3日間 |
| 9月21日（火）～22日（水） | 2日間 |

歴史体験コーナーは夏季特別展の会場として使用されるため、次の期間中は休止となりますのでご注意ください。
7月8日（木）～9月7日（火）

本多の森から

梅雨の晴れ間の陽気のもと、バスツアーでお隣の高岡市を訪れました。見学地の一つ勝興寺は、重要文化財の建造物十二棟を、二十年がかりで修理している最中です。今回は特別に工事現場に入れていただき、修理の様子を間近に拝見しました。解体された建材が一本一本並べられ、文化財建造物の修理が手間をかけて丁寧に進行しているのを感じました。

さて、歴史博物館の赤レンガ棟も、建てられて約百年が経過した重要文化財です。数年後に予定している博物館リニューアルも、この赤レンガ棟の価値と独特の雰囲気を生かしつつ、どう活用していくか、という点から検討が始められています。「新しく建てた方が楽だなあ」とばかりせず、大切な文化財建造物を後世に残すため、私たちが手間ひまかけないと、と感じた一日でした。